

テーマ研究・調査活動成果報告書

提出日：2021年 3月 24日

<p>テーマ名</p>	<p>「ITCが理解すべきコロナ環境下でのゼロトラストセキュリティ」 ～DXを推進する為に必要なこと～</p>	
<p>届出組織等名称</p>	<p>企業内ITコーディネータ・ITガバナンス研究会</p>	
<p>成果物公開URL</p>	<p></p>	
<p>当活動代表者 及び担当者連絡先</p>	<p>(代表者氏名) 古川 正紀 電話番号:03-5953-6121 e-mail: furukawa@astop-si.co.jp</p>	<p>(担当者氏名) 同左 電話番号: e-mail:</p>
<p>研究・調査 成果概要</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う外出自粛などの影響でテレワークの導入が進む中、サイバーセキュリティ上の対策として「ゼロトラストセキュリティ」に注目が集まっている。 概念としては決して新しいものではなく、「何も信頼できない」という前提のもとに、外部・内部を問わずネットワーク上のすべてのアクセスを制御するというコンセプトのセキュリティ対策として、Forrester Research社が2010年に提唱した考え方である。 近年ではサイバー攻撃の手口も高度化・多様化しており、目的の企業を直接攻撃するのではなく、セキュリティの甘い関連企業を踏み台にしてネットワークに侵入し、間接的に目的の企業を攻撃する手法もある。このため、従来の考え方である「境界型セキュリティ」だと間違いなく打つ手が足りなくなっている。  本論文で、私共「企業内ITC・ITガバナンス研究会」としては、ITコーディネータ諸兄が理解しておくべき、次代のサイバーセキュリティ上の対策を、このゼロトラストの考え方「すべての通信を信頼しない(なにも信頼できない)」こととして、今後ゼロトラストへの適応が必要となってくることを前提として、各企業(主に中堅・中小)のセキュリティポリシーの見直し、それに伴うネットワーク構成や接続機器等々を再検討することや、NGAV (Next Generation Anti-Virus) 製品やEDR (Endpoint Detection and Response) 製品の導入・運用を考えることで、ゼロトラストについて展開、提言もさせて頂いた。 クラウドサービスの活用や、テレワーク導入によりゼロトラストでのセキュリティ対策が広まっている時代に在って、クラウドサービスも安心して利用できる(メリット)が、ランニングコストがかかり過ぎる(デメリット)と言われるこの概念を、整理できたものと考えている。</p>	
<p>成果物</p>	<p>章立ては、  1章ITコーディネータが理解しておくべきafterコロナと企業・個人の働き方の変化 2章「withコロナ」「afterコロナ」時代のセキュリティとは 3章「Withコロナ時代」の汎用ビジネスツール活用 4章ゼロトラストと情報セキュリティポリシーとの関係 5章セキュリティ・トレンドからみるゼロトラストとITコーディネータ 6章おわりに 別紙:ゼロトラストセキュリティ Q&amp;A  とし、ITコーディネータの活用シーンにフォーカスして、論述致します。</p>	

<p>事務局受付日</p>	<p>2021/3/24</p>
<p>案件番号</p>	<p>S20006</p>